

今、世界に目を向けるということ

実践教科：道徳、学活

対象学年：中学1年生 対象人数：34人

廿日市市立
阿品台中学校

舟木 耕太

●担当教科●

学活、道徳、総合、
数学

実践の目的

ネパールの日本人の活躍を通して国際協力について考える。

授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	どこの国だろう？ 担任がネパールへ行くことを伝えるとともに、ネパールに対するイメージをもつ	(1)自分が行ってみたい国を考え、理由も含めて交流する (2)ネパールの人が写った映像を見せて、どこの人か考える (3)ネパールについてのイメージ、聞いてみたい事を書く	・ワークシート ・プロジェクト ・ネパールの地図、国旗
2	ネパールに自分たちを紹介する	(1)自分たちの国の文化を紹介する目的を話す (2)自分の好きな言葉を考える (3)習字で好きな言葉を書き、作品作りをする	・ネパールの写真 ・習字セット
3	写真から考えるネパール ネパールで体験したこと を写真で伝え、写真から 見えた新しいネパールの イメージをもつ	(1)数枚の写真を仲間分けする (2)仲間分けをした写真はどういうテーマで出来たグループなのか考える (3)写真にまつわる話を聞く (4)話を聞いて思ったことを書く	・ワークシート ・プロジェクト ・写真 ・ネパールのお土産 (トピーやお金)
4	なまず池のある町	(1)町の説明、町に必要な施設の説明を聞く	・ワークシート
5	すべての町がつながっていることを知る中で、自分たちにとって住みよいだけでなく、全体にとっての住み良さについて考える	(2)それぞれのグループで住みよい町づくりをする (3)町のプレゼンテーションをする。(工夫した点、アピールポイントなど) (4)自分が住みたい町に投票をする (5)町を流れる川がつながっていて、町と町との関係を知り、気づいたこと、感じたことを書く	
6	世界がもし100人の村だったら	(1)アイスブレーキングをする。(部屋の4隅)	・ワークシート ・プロジェクト
7	人口、識字率、富の配分などから貧しい国や、世界の中の日本を意識する	(2)現在の世界の人口についてクイズをする (3)役割カードに従って、世界の現状に目を向ける ・世界の男女比 ・世界の年齢層	・役割カード ・ロープ ・コップ ・カルピス

6 ・ 7		<ul style="list-style-type: none"> ・世界で使われている言語 ・大陸ごとの人口 ・世界の富の配分 <p>(4)絵本「世界がもし100人の村だったら」の文章と映像のスライドを見せる</p> <p>(5)授業の感想を書く</p>	
8 ・ 9	貿易ゲーム ゲームを通して、世界の貿易で起こっている問題に目を向ける	<p>(1)人口の世界地図とGDPの世界地図を見てクイズをする</p> <p>(2)貿易ゲームの趣旨を説明し、グループ分けとルール説明を行う</p> <p>(3)ゲームを行う</p> <p>(4)ゲームを通して感じたことを発表する</p> <p>(5)貿易ゲームの趣旨を再確認し、感じたこと、不平等を解決するためのアイディアを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループごとの封筒セット ・世界銀行のお金 ・掲示用イラスト
10	バナナとカカオの話 自分たちの身の回りの製品が、世界の不平等の上にある事実を知る	<p>(1)貿易ゲームで出た感想と、不平等を解決するためのアイディアについてフィードバックする</p> <p>(2)バナナ農園の子どもの話を読む</p> <p>(3)チョコレートを知らない子どもたちの話を読む</p> <p>(4)授業の感想を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・バナナ ・チョコレート
11	いちばん身近な海外協力 シャプラニールの3話を中心に、フェアトレード製品について考える	<p>(1)数種類のバナナと値段を見せ、どのバナナを買うか選び、理由も言う</p> <p>(2)フェアトレードの説明を聞く</p> <p>(3)シャプラニールの話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういう活動をしているか ・心がけていること ・フェアトレードというだけでは売れない <p>(4)消費者として、出来ることは何か考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シャプラニールパンフレット ・写真 ・フェアトレード商品 ・ワークシート
12	頑張れ日本！世界は日本とともにある 東北大震災に対して、世界中から支援があった事実を知り、助け合いには途上国も先進国なく同じ立場だということや、しんどいときでも誰かに手を差し伸べられる、人の温かさについて考える	<p>(1)日本に支援を申し出た国にはどのような国があったか考える</p> <p>(2)東ティモールのエピソードについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような思いで支援をしたのだろうか <p>(3)東ティモールの現状を聞き、考えを深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の国に目を向けている場合なのか ・自分がしんどいときに誰かに手を差し伸べられるか <p>(3)アフガニスタンのエピソードを紹介する</p> <p>(4)授業の感想を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・写真

13	<p>世界も、自分も、変える シゴト</p> <p>ネパールで青年海外協力隊として活躍する日本人のエピソードから、国際協力について考える</p>	<p>(1)ネパールの映像を見て、現在のネパールの現状について知る</p> <p>(2)Hさんの紹介を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういうきっかけで協力隊の活動に申し込んだか <p>(3)Hさんの活動の実際を知る</p> <p>(4)モノやお金だけでなく、現地の未来を考えて支援をすることの大切さについて考える</p> <p>(5)授業の感想を書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・プロジェクト
----	---	--	--

この授業に注目！

③限目 写真から考えるネパール

ねらい：ネパールの写真から、ネパールの文化について知る。また、ネパールが抱える問題についても考える。

まず、ネパールについての写真を9枚配り、その写真がどのような写真なのかを自由に考えさせた。

グループ：食



グループ：ヒマラヤ



グループ：水



グループ：建物



グループ：宗教



グループ：学校



グループ：日本人の活動



グループ：児童労働



グループ：ストリートチルドレン



続いて、それぞれの写真とつながりのある写真のセットを配布し、グループ分けを行わせた。その後、グループ分けの理由を考えさせた。最後に答え合わせをしながら、ネパールでの体験談や、ネパールの現状について話をした。

児童の反応

- ・子どもも働かなきゃいけないような状態にビックリした
- ・困っている子どもたちがいて、貧しくて悲しい
- ・ネパールには日本と違うところと同じところがあって、面白いなと思いました。
イメージとはちょっと違いました。1番ビックリしたのは学年が違うのに同じ教室だったことです
- ・ネパールは貧富の差がありました。親もいない人や受験ができる人や、平等じゃないと思いました
- ・今日、いろいろな写真を見て、日本はとても幸せだと思いました
- ・色んな環境で育っている人がいることを考えた

所感

生徒にネパールについての知識がほとんどない中で、こちらで写真のグループの枠を与えて、活動させるというのが少し難しいように感じた。特にグループ分けの理由について考えてみようというところでは、生徒の方で写真のつながりについて考えることが難しかったようだ。そこで、教師の方からヒントを与える中で、写真からいろいろなことを考えることができた。

授業実践を重ねていく上で、今回の授業は導入としての要素が強かった。生徒の感想をもとに、生徒の実態を考えることができた。ネパールの抱える問題や、途上国に対するイメージを持たせることで、授業計画を考えていく参考になった。

4・5眼目 なまず池のある町

ねらい：自分の身の回りだけでなく、さらに広い周囲とのつながりについて考える視点をもつ。

まず、町のマップを配布し、活動の内容を説明する。

- ・町の特産でもある、なまずが棲む池を中心とした町を作ること
- ・住宅、スーパー、市場、レストラン、学校、養鶏場、食肉加工所、トウモロコシ畑、その他必要な施設があれば取り入れてよい
- ・どこにどの施設を設置するかなどを工夫し、みんなにとって住みよい街にすること

それぞれのグループで町づくりを進めた後、完成した町の発表会を行う。その際は、町づくりで工夫した点をアピールさせる。発表会ですべてのグループの発表を聞いて、一人1枚のシールを自分が気に入った町に貼り付けさせる。投票結果を見ながら、教師から、汚水が下流に流れるように考えていたグループなどを取り上げ、「みんな」にとって住みよいの「みんな」というのは人間だけでなく、例えば、なまずにとっても住みよい町かどうか、投げかけをおこなう。その後、9グループの作った町を並べて、すべてがひとつの川でつながっている事実を伝える。自分たちの町だけでは住みよかつた町も、全てがつながっている時にうまくいくかどうかについて考えさせる。自分たちの身の回りだけでなく、もっと広い周囲とのつながりについて考えるこの重要性を伝える。



生徒の作品のひとつ

所 感

JICAの国際理解教育研修会で体験したWSを行ってみた。活動は生徒にとって、とても面白い活動だったので、熱心に町づくりをしていました。グループの中には、上流と下流を考えて施設を配置するだけでなく、循環施設を設置するなど、「持続可能」という視点を持っているグループもあった。最後に、すべての町が一つの川でつながっていることが伝えられたときは、生徒の反応は予想していたよりも驚きが大きかった。自分たちの生活が、広い範囲に影響を与えていて、また影響を受けていることについて考えることができたようだ。

6・7眼目 世界がもし100人の村だったら

ねらい：世界の現状について知る中で、南北問題や日本の世界における立場について考える。

まず、アイスブレーキングとして部屋の4隅を行う。

- ・どの季節が好きか？
- ・旅行に行くならどの地域か？
- ・今の世界の人口は？

世界の人口が70億人を突破したことを伝える。

活動の趣旨を説明し、役割カードを配布した後、役割カードに従って活動をする。

- ・世界の男女比
- ・世界の年齢層（日本の年齢層についても考える）
- ・世界で使われている言語（自分と同じ言葉で挨拶をする仲間ごとに座る）
- ・大陸ごとの人口（大陸ごとのロープの中に役割カードに従って座る）
- ・世界の富の配分（カルビスを用いて、富の配分について考える）

続いて、世界がもし100人の村だったらの本文と、映像のスライドを流し、授業の感想を書かせる。



大陸別の人口構成は？

所 感

もともとやってみたかったWSだ。世界を100人の村に縮めて見えることは、世界の一面にすぎないかもしれないが、生徒にとって大陸ごとの人口や、貧富の差は衝撃的だったようだ。ネパールに限らず、世界の現状に目を向ける機会になったと感じる。前回の「なまず池のある町」での体験があり、他人事でなく自分たちの生活がつながっていることを前提に問題をとらえている生徒も多かった。

8・9限目 貿易ゲーム

ねらい：ゲームを通して、世界の不公平な状況について考える。

まず、世界の人口マップとGDPマップを見せて、何を表した地図かを考えさせる。クイズに正解したグループからチームを決めていく。

- ・ Aグループ×1 (先進国で道具が豊富、車を作る)
- ・ Bグループ×2 (新興国で資源も道具もそこそこ、シャツを作る)
- ・ Cグループ×4 (途上国で資源はあるが道具は足りない、エビや飼、バナナなどを作る)

本時の活動が世界で起きていることの一部を実体験するためであることを確認し、貿易ゲームのルールを説明する。教師が世界銀行となり、ゲームをスタートする。

ゲームの進行中に、ハサミのオーバークションや新しい資源の発見、シャツの値上がりなどのイベントを入れることで活動を活性化させる。

ゲームの終了時には、各グループでの感想を発表させ、世界ではどのような問題が起きているのかをもう一度考えさせる。

また、問題を解決するためにどのようなことが必要だと思うか考えさせ、感想とともに書かせる。

所 感

こちらもやってみたかったWSを実践してみた。初めての実践だったので、ファシリテーターとして活動のねらいに迫れるか不安であった。活動開始後、各グループ間で物々交換や取引、先進国の現状に対する不満などが出て、活動は大変盛り上がった。ゲーム終了時に、ゲーム中に起きたことや、生徒の感想をうまく取り上げていきたかったが、自分自身の予想が足りなかつたこともあり、うまく取り上げられなかつたこともあった。しかし、生徒の中には、またやりたいという声も多く、次回は「フェアトレード」の視点を入れるなど、改善をして実施してみたい。

11眼目 いちばん身近な海外協力

ねらい：フェアトレードの商品について知ることで、消費者としての心構えについて考える。

まず、4つのバナナを見せて、どのバナナを買うか考えさせる。

- ・アメリカの会社のバナナ（98円）
- ・日本の会社のバナナ（198円）
- ・沖縄産のバナナ（700円）
- ・フェアトレードのバナナ（350円）

はじめは見た目などを基準に意見が出るが、値段を言うと高いバナナを選ぶ生徒はほとんどいなかつた。

次にフェアトレードの商品について説明をする。

- ・フェアトレード商品とは何か
- ・フェアトレードの商品の紹介（ピープルツリーのチョコレートなど）
- ・シャプラニールの紹介（シャプラニールのパンフレット）

シャプラニールのKさんの話をもとに、消費者として責任ある行動について考えさせた。

シャプラニールが、フェアトレード商品だけでなくさまざまな活動をしていること、現地の人々が主人公ということを心がけていること、フェアトレードというだけでなく商品としてよりよいものを作っていること、最近はフェアトレード商品がどのようにフェアなのか考える消費者も増えてきたことなどについて伝えた。

最後に、物を購入するときに大切にしたい視点（「値段、見た目、ブランド」など）について次の項目に、グループで順位をつける。



シャプラニールのKさん

所感

ネパールでシャプラニールのKさんに話を聞いた内容をもとに授業をした。事前にバナナやカカオの話をしていたので、バナナを用いての導入とした。自分自身、フェアトレードの商品に対するイメージは「公平な取引をしているけど高い」といったものだったが、Kさんの話の中で、「フェアトレードというだけでは売れない、本当に商品としていいものだから買ってもらえる」という話があった。フェアトレード商品が、商品を買う時のひとつの選択肢になればと思い授業を準備する中で、シャプラニールやピープルツリーといった団体の活動について、自分自身が学ぶ機会になった。

12眼目 頑張れ日本！世界は日本とともにいる

ねらい：世界から日本への支援について知る中で、どんな状況でも他の人のことを考えることができる、人間の心の温かさについて考える。

まず、東日本大震災に対して世界のどのような国から支援があったかについて考えさせる。世界の157カ国から支援があった事実を伝え、その中の一つである東ティモールからの支援について考えることを伝える。

東ティモールの人はどのような思いで日本に支援をしてくれたのか考えさせる。

- ・日本にはお世話になっているから
- ・日本が大変だからほっとけないから

生徒の意見を全体に出させた後、東ティモールの実態について伝える。実態を聞いて、日本に支援をしようという思いについて深く考えさせる。「本当に日本に支援をしている場合なのか」など切り返しの発問を入れる。

東ティモールの人が桑山さんに言った言葉を伝え、国の立場や状況によらず人が持っている温かさについて考えさせる。自分がしんどい状況でも、困っている人を見て見ぬふりをしない心を、自分たちの身近に置き変えて考えさせる。

最後に、グローバル・エクスプレス サンプル版第14号のアフガニスタンのエピソードを読み、授業の感想を書かせる。



マンガをもとに考えた

所 感

広島国際交流・協力の日に参加した際、桑山さんの地球のステージに感動して、授業で取り扱いたいと思った。アジアの最貧国のひとつ、東ティモールからも日本への支援があったことをもとに、授業を考えた。

「困った時はお互いさま」「ほっとけない」困っている人に手を差し伸べたいという人の持つ温かい心について考えることで、日本から世界に出て活動をしている青年海外協力隊の方の話につなげたかった。

生徒の反応では、身近な問題として置き換えて、自分がしんどいときに困っている人に手を差し伸べられるかについて考えたといったものがあった。また、日本が海外に出て活動していることも大切だと感じた生徒もいた。生徒の感想は学級通信（資料1）などを用いて全体に返した。

13 眼目 世界も、自分も、変えるシゴト

ねらい：青年海外協力隊として活動する人の話を聞く中で、国際協力の在り方について考える。

- ・ネパールの様子の映像を見せる。
- ・ネパールが抱える問題についても触れ、日本からどのような支援があるのか考えさせる。
- ・青年海外協力隊について、知っているか尋ね、青年海外協力隊についての簡単な説明をする。
- ・Hさんの紹介（参加の動機）、活動現場までの道のりなどを映像で紹介する。
- ・手洗いや歯磨きなどの重要性を伝えることでネパールの問題（衛生面や栄養面）がどのように変わっていくのか考えさせる。
- ・モノの支援、お金の支援だけでなく、現地の人が自分たちの手で、未来を築いていく力をつけるための支援があることについて考えさせる。
- ・Hさんの新しい取り組みである「性教育」について映像を見せる。先進国からみて「正しい」と押し付けるのではなく、文化を紹介するという視点について考えさせる。
- ・Hさんのインタビュー映像でHさんの夢や2年間で変わったこと、日本の中学生へのメッセージを伝える。

授業を通して感じた感想を書かせる。



手洗いを呼びかける図の設置



Hさんは子どもに授業もする

所 感

今回、教師海外研修で一番印象に残ったHさんの活動観察について授業を行った。伝えたい内容や、考えたいことはたくさんあったが、1時間の授業で何を大切にするのか悩んだ末、Hさんの行っている活動が、どのような視点で行われているものなのかを中心に扱った。

実際にネパールの様子、Hさんの活動の様子を写真や映像で見ることができたので、生徒は活動の様子についてイメージしやすかったようだ。しかし、国際協力の視点という部分については、難しい面もあったかもしれない。ただ、結婚して間もなく単身で日本を出て、ネパールのために活動をしている人がいることを知って、生徒は色々な事を感じることができたようだ。

全体を通しての成果と課題

実際にネパールに行った中で、自身が一番印象に残った体験が協力隊隊員の方との話だ。この体験をぜひ生徒にも伝えたいと感じた。日本が世界の中で、どのような活動を行っているのかを考える。というのが当初の授業実践のねらいであった。しかし、当初計画していたよりも授業時数を増しての実践となつた。

そのきっかけが、授業実践を開始した当初の、ネパールの印象についての生徒たちの「かわいそう」、「貧しそう」といった反応だ。青年海外協力隊の方の話を聞いても、「自分と遠い世界で頑張っている人の話」だけで終わらせたくないと思った。

そこで、ネパールという国だけに関わらず、世界に目を向けること、人ごとではなく世界と日本がつながっていること、同じ立場に立つことについて考えたいと感じた。また、今年は東北大震災があり、本校でも被災地支援のための活動を行つた。今、日本が大変な時に、世界に目を向けることについても、生徒と考えたいと感じた。

そうした思いの中で授業実践について考えた。ねらいとした部分を生徒と考えるためにには、その前提となる視点や知識が必要なのではと考え、JICAの国際理解教育研修会で実際に体験したプログラムをアレンジしたり、ネパールのみに絞らずに参加型の国際理解教育のツールを活用したりした。自分自身にとっても、やってみたかったプログラムを実践する機会になり、有意義なものとなつた。

ネパールの日本人の活躍を通して
国際協力について考える。

今回の実践を、「よその国で起きていること」「他人事」で終わらせないために…

- ・自分たちの生活が、他の国と深くかかわっていることを知ることが大切
- ・世界の現状、世界の問題について知ることが大切
- ・自分たちにもできる国際協力について知ることが大切
- ・世界で相互に助け合いが行われていることを知ることが大切

参考資料

【書籍】

- ・教室から地球へ「開発教育・国際理解教育虎の巻」独立行政法人国際協力機構中部国際センター
- ・ワークショップ版「世界がもし100人の村だったら第3版」開発教育協会
- ・いちばん身近な海外協力「Craft Link南風」特定非営利活動法人シャプラニール=市民による海外協力の会
- ・グローバル・エクスプレス サンプル版第14号「東日本大震災 世界からの援助」開発教育協会

【インターネット】

- ・「がんばれ日本！ 世界は日本と共にある」外務省HP
- ・なんとかしなきゃ！プロジェクトHP
- ・地球のステージHP
- ・JICA独立行政法人国際協力機構HP
- ・シャプラニールHP
- ・ピープルツリーHP

Progress

1年1組
学級通信
11月21日(月)

世界に目を向けるために... 色んな立場に立つ。色々な視点をもつ。

みんなにとて住みよい町

- 班に質問。人と1313町について流れに乗じたけど、難しくもありました。題名の通り、その町の人達がではなく、周辺の町の人たちのことも踏まえて住みやすい町を作らなくていいかな?などと思いました。
- 乙もり川は自分の町だけに流れ13のものと思いつながら、びっくりしました。日常生活でも周りを考えて行動できたらいいなと思いました。
- 他の町につながっていると思うと、個人で乗った施設よりも他の町に迷惑をかけない町をつくるのが大切だと思いました。
- 「自分の町の下流」が「他の町の上流」になります。つながるなんて考えたから、「この町がよけれめ!」と自己中の考え方をしてしまいました。この、自分の町だけが自分だけとの自己中の考え方があったら、いい取り組みはできないと思いました。

9つのグループに分かれ、町づくりをしました。それぞれのプレゼンを聞いて、良いなと思う町に投票をして... でも、それは「人にとて住みよいの? みんなにとて住みよいの?」という問や、実はそれの町が1つの川につながっていると知ったとき、何を考えましたか?

世界がもし100人の村だったら

- 日本は裕福なんだなと思いました。食べ物を残せることなく食べ物がある。食べるものの本数少ない国には悪いなと思いました。あと、どこの国が大きいかとか、言葉を話す人の数とか、世界の人口なども楽しく勉強しながら知ることができました。
- 私はシールが赤ひ恵まれているという設定でした。ほとんどの人はコップの半分以下でした。日本は、どうなるか残せるほどの幸せを持っています。次は給食ですが、まだ残さないようになります。
- カレーパンを表した貧富の差があれだけあるとは思えなくて、正直びっくりなと思つた。
- 日本はとても裕福な国なんだなと思いました。残して当たり前じゃなく、残さなくて当たり前になる国にしたいと思いました。
- 僕は今回の授業で世界には僕たちが住んでる日本みたいにたくさん食べられて、幸せに暮らしている国が多いけど、そうでない国もあると知り、他の人のことを考え、現実を見ています。
- 私は「世界がもし100人の村だったら」の本を読んだことはありますけど、実際に今日の授業でやってみて、考えさせられました。富が多い国は食事ほど持っていて、富の少ない国はほとんど持っていないので、その富が多い国の余った分は富の少ない国にあげたらいいのになあと思いました。でも、これが今の世界ではできっこないでの、いかができますようになったういいなと思いました。
- 日本が裕福なのね。前から何となく知っていたし、話を聞いて、3日くらいは給食を減らさないたることはありました。でも、すでに忘れて、気がついたら、元の生活に戻っていました。「なんであれか、なんどう」

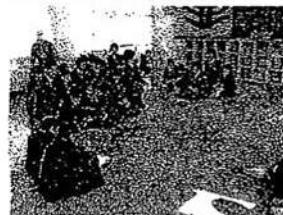
クラスのみんなで世界を縮めて考えると... この授業で見えてくることは本当に世界のすべてを表している訳ではないけど、それでもたくさんの受け付けがあつたようです。知るなり毎日、気が付けてない毎日を送つていいはいけないのだと思います。

貿易ゲーム

- 自分たちはメチャクチャ頑張って金をためたのに、AとかBとかは、「お金貯まるのに時間がかかる」とか言つたから、ちょっとイラッときました。
- 私は富が少ないグループでした。10+10を5倍作ってやつと1000円で、作るのも大変で、道具も少なくて、儲けた金額はBやAには及ばない程遠くて... 今回も、日本は儲けが1111所でした。
- 初めは、たたかの500円でも、頑張って儲けることができるかと思つたけど、意外と難しくてシャツなどを使つていいグループが、うらやましく思うこともありました。
- 僕はCで、あまりよくなかったけれど、パンやおみのりを借りたり、コンパスなどは他の人がやっていたことを手伝つたり、1313な工夫をせるゲームでした。面白がたし、負けを悔しかつたらまたしたのです。
- 面白がたです。ちょっと道具もなく、最初のお金も少なくて、焦つたけど、みんなで役割を決めてがんばりました。AやBの4~4には及ばないけど、面白がたです。でも本当は、心の中で「くそ~」とが悔しい思いもあります。けど仲間と協力できて、とても楽しめたです。
- お金がない国を見ると、裕福な国はすごいうらやましいなと思うことが分かりました。
- 最初は鉛筆と500円と赤鉛筆しか入っていなくて、隣の色鉛筆といがななくて、ヒモ用、25分シートも貰つてもらいました。ところが頑張つたのに最後残ったお金は7400円でした。シャツや車は高値で取り引きされました。
- 最初から11ばいお金を持っているグループは、ずるりなおと思つらしました。しかも、11十難いし...
- こんなに難しいとは思わなかつた。何人がやりつても、1人ぐらいいが、仕事がなくてなつてしまつたり、遊んでいたり。他の所に借りに行くときも、自分たちがお利損をせず、なぜ考へながらやつた。
- まず... 他人に「不平等」とか言われるのが... だつて、儲けるゲームで儲けて、何が悪いのかがわからなかつた。これ儲けて、「だめ」と言うと感じ悪く帰つて人にも腹が立つた。でも、このグループの思つていることも分かりなかつた。
- 初めて、眼の型はされたけど、シカとかもけつなかつたので、そこで話し合つて分担を決めて、どんどんいい商品ができるといつたがなと思つます。今日は楽しめたけど、グループの人があれ来る人の提案を断つてついたのが気になりました。
- 最初、私の手元は使うものがほぼ揃つていて、他の班は全然お金とか材料などの使うものが足りないのを知つて、「どうして公平にしないのかな」と思つました。普段貿易とかしないから、売つてくる班も必死でちょっとビックリしました。
- 今日の学習で、僕のグループは最初から全ての材料が揃つて、製品を作つたところ、他の国の人たちが物を借してほしいと言つたので、他の国は材料がないんだと思った。車1つ作るだけで大金が入つくるのがビックリしました。

自分の国でも1を作つて世界銀行へ売りに行くというゲーム。しかし、封筒の中身の違う人に驚いたと聞きます。用紙はあるけど作ることができない... 色んな立場を経験する中で、気がついたことは何だつる?

また機会があつたらやつてみたいですね。そして、この体験を今後の学習につなげて、いいください!! 世界に目を向けるために



みんなが死に交渉をします。
上手に交渉を進めるこことは
できましたか?



大陸continentにロードの中に入つてみた。
空氣いふる地域は?
(世界がもし100人の村だったら)

Progress

48

1年1組
学級通信

1月12日(月)



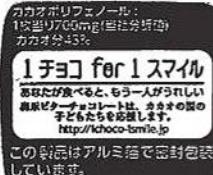
世界に目を向けるために...私たちにできることは?

14+の話、カオの話(世界の不平等)

- 今日の話を聞いて、思ったことは、他の国が勝手にこの国のことを決めていいなと思いました。
- 14+の話は、生活のために食料を作っているのに会社が来て勝手に14+農園にしたり、チョコレートの話は、奴隸が14+ばかりで、しかもその奴隸がまだ子どもで、1万人以上もいるし、何よりもどうかないと思いました。
- 今日の話を聞いて、14+やチョコをちょっと食べにいった。だけど、14+やチョコを作っている子どもたちに、感謝して食べたなと思いました。世界には飢えている人や、子どもなのに働きでいる人がいる、ひどいなあ...と思いました。でも、この国から物を奪っているのは日本なので、ちょっとこれはどうかな~と思いました。
- 貿易ゲームをして、どうすれば世界が豊かになるかを考えたけど、働き場を作ることも、この国の人々はお金をもらえないで苦しんでいたりする。ということがかかった。こんな話を聞くと、改めて日本は豊かな国なんだなと思った。このことを知り、14+などに感謝しながら生活をしてきましたなと思った。でもやっぱり、世界がどうやら平和になるのかなとちょっと気がなくなりました。
- 今までの話をまとめてみると、本当に日本は裕福な国なんかなと思いました。富もある。便利なものもある。学校にも行ける。日本では当たり前で当たり前だとは思えない国もあると、改めて思いました。そして何より驚いたのは「自分の作っている物を使えたことがない」そんな人が14+の人だと、目を疑いました。
- 今日は奴隸という言葉が多く出てきた。奴隸のことは「世界一受けたい授業」として知るところだけど、今思ってみるとショックだったりする。自分の生活は裕福だと思うと、この国の、この家庭は産まれてきた確率のことを考えてしまう。
- 全部、すごく悲しい話で、心が痛いです。自分もチョコレートが大好きで、今見たチョコマーも見たことがあるので、その時は何も思わなかったけど、今見ると「ああ、このような意味で書いてあるんだな」と思った。

どこかのスーパーにあるような14+とチョコレートが私たちの手元に届くまでの背景について考えました。先進国は現地につくった大規模な農園では、生活もまばらな状況で働く人々の姿が...

これまで、世界に目を向けようとしていることを考えこまないが、私たちにとって一番身近な買い物に、こんなに世界がつながっているなんて...14+やチョコレートを買わない訳にもいられない。でも、そのままにしておけない。消費者として、私たちにできることって何だろう?



この製品はアルミ箔で密封包装しています。

フェアトレードの話(賢い消費者になるために)

- なるべく安いものを買う。2. 興味のあるものを買う。
- 安くても、ちゃんとどんな人が作った何でこんな値段なんだ?、と考えることを意識できるようにいたします。
- フェアトレードの商品をなるべく買おうと思いました。作っている国をちゃんと見て、商品を選ぼうと思いました。
- 少し高くなる、現地の人にお金が行き渡るようにしてもらいたい。
- 値段だけではなく、作り方(育て方)なども考えて買う。
- 「安い」や「食べ慣れている」「だけではなく、「環境問題に適している」フェアトレードのような商品も含めて買いたい。
- 作っている国などを見て、考えながら買う。今日はフェアトレードのマークを知ったから、時々なら買うべきだと思った。
- 買いたいとき、あまり無駄な物を買わない。少しでも作っている人のことも考えて買いたい物をすればいいと思いました。

48円~750円まで、14+1房の値段の違いの理由を考えたとき、「国産だから」とか「大量生産だから」とか、銳い意見がたくさんありました。みんなは買いたい物をするとき、どんなことを基準にして買いたい物をしていますか? 買いたい物をする立場にいる私たち。私たちには、買いたい物をするときに選択の自由も与えられます。この自由を、しっかり受け止めたなものです。

じゃあ、実際にどうでしょうか? 消費者が、例えば「安さ」にしか関心がないなら、こうした商品づくりは世界は流れいく。「ブランド」にしか関心がないなら...「見た目」にしか関心がないなら...賢い消費者になるためにと書きましたが、個人的には、賢い消費者というのは、モノを買うときに14+など基準を持つことで、しっかりと考えた上で買うことができる人ではないかな? と思います。

もちろん安い物を買うのも、ブランド品を買うのも悪い訳ではない。大切なのは、14+などを買った上で、その商品を買うという選択をすることだと思います。

「作っている人の顔が見えますか?」

「フェアトレードというだけでは売れません。本当に良い物を作るから買ってもらえない」

最近では、フェアトレード成どのようだ? フア(=公平)なのが、質問される消費者も増えているとか。そういう賢い消費者が増えると、企業の努力にも一層力が入るので?



フェアトレード
のラベル

*他にも色々なラベルがあります。



少し高いけど、公平な取り引きを意識してbananaです。



ネオプランニール Kさん(ネオフレイズ)

Progress

52

1年1組
学級通信
1月11日(水)

世界に目を向けるために～今、世界に目を向けることとは～
がんばれ日本！世界は日本とともにある

- ・日本はすこい国だと思った。東京モールヒアガニスタンは自分達が貧しいのに日本に支援をしてくれたから。何ができることがあるなら、それをしたいと思った。
- ・「困った時はお互い様」なんて、自分たちが大変なのにすうっと言えるなんてすこいなと思いました。
- ・話を聞いて、とても温かい気持ちになりました。人を助けたら、自分が困ったときに助けてくれるし、どんなに貧しくても、自分の給料を少なくしてでもお金をくれるのはありがたいことだと思いました。
- ・今度は自分達がこの国にお礼として支援したいと思いました。
- ・どんなに貧しくても、何があるとも、「困った時はお互い様」という言葉があらこそできることなんだなと思いました。自分も、困った人がいたら助けたいです。
- ・今までアフリカや中国、韓国などのお金を持っている国がしか支援もされないなと思っていましたけど今回習った国などからも、お金など、生活に困っているのに支援してくれたことを知り、とても感動しました。
- ・他の国に助けられたから僕たちも助けよう「お互い様」という言葉が必要だと思いました。
少し前、「モーハイ」(Mottainai)という言葉を広げる活動をしている人も、同じような言葉を言っていたので、「モーハイ」と同じように「お互い様」という言葉も重要なと思いました。
- ・日本は東日本大震災があるまで支援する側だったけど、東日本大震災があとから支援される側になりました。支援される「温ぬさ」に気付いたと書っていました。これから日本はもっと支援を大切にするんじゃないかなーと思いました。
- ・私はすこいなあと思いました。自分たちも苦しい状況なのに日本が支援してくれたら大変なことがあつたと日本に支援をしてくれて、自分がこんなことができるかなと思いました。私もこんな気持ちを持ちたいです。
- ・やっぱり国と国とつながってると思う。昔は仲悪くて戦ったした国でも、今はこうやって助けてくれてるが、「世界は日本とともにある」という題にピッタリだと思う。
- ・自分自身が大変なところに住んでるのに、その中でちゃんと日本を助かれた!と思ってくれた人にしっかりと感謝した!と思いました。

東京モールヒアガニの支援について考えました。自分の国がて本当に苦しくて大変な状況でも、「日本を見捨てられないから」「困ったときはお互い様だから」と手を差し伸べられる心。それはお金があるからとか貧いからとか関係なく人が持っている温ぬさなんだと思います。

みんなは身の回りの人が困っているとき、たとえ自分がしないでも、手を差し伸べることができますか？



世界も、自分も変えるシゴト

- ・私は青年海外協力隊という人達を知っていて、2年間途上国に行って支援活動と zwarするには知っているけど、その支援の内容とかはあまり知らない。今日初めて、教育とか行政とかの分野があることを知りました。Hさんは1人でネパールに行つてしかも結婚してやまなのは、自分のコトよりもネパールの人たちのことを考へられる。これがいいなと思いました。
- ・ネパールの人たちは、日本よりも貧い生活をしているように見えたけど、日本の人が、11月はネパールに行つて支援してることを知らなかった。だから、日本がネパールから学べることや、ネパールが日本から学ぶことがありますから、これからも11月は國を支援していくたらいいと思った。
- ・支援でモノやお金をあげても「今」は助かるかもしれないけど、後は分からぬ。ということに、「ああ、どうなかよ」と思いました。だからやっぱり未来に続くような活動をしませんか、ソウな感じなと思いました。
- ・Hさんは、お金やモノの支援だけでなく、自分がいかなくて役に立つ支援を考えていますとあります。日本でも、東北の震災があったけど、それにもミシンを送る人達がいると思いました。たたモノを送るだけでなく、その後にも役に立つ支援をしている人達がたくさんいるんだと思いました。
- ・今日の授業では、「貧い国からお金やモノをあげる」では、一時だけの支援にしかならないことを分かった。しかし、私たちにはそこへ行って支援することはできない。だからこそ、その国の今の状況を知ることが大切だと思いました。
- ・私は支援って何か物などを送つて助けることだと思っていました。でも今日の授業も聞いて、それも支援だけどこれらネパールの人たち自身で問題を解決できるように力や知識を教えることも大事なんだと思いました！ Hさんはすこいと思いました。結婚してすぐネパールに行つて子どもたちに教えて。すこい仕事がやられたのかなと思いました。この仕事を通じて自分の気持ちも変化して Hさんはよがちなんだなと思いました。
- ・日本には、たくさん的人が人の役に立ちたいと思ってがんばっている人がいるんだなと思いました。「人の役に立つ」ことをするということは、僕もできるようになります。でも、まずは身边的「役に立つ」仕事、委員会しきりや、やってみたりです。
- ・Hさんが行つた活動は、何年か先ネパールの人が幸せになれるような活動をしてくるとあります。青年海外協力隊というものを初めて聞いたけど、日本から2000人以上の人人がこのような活動をしているんだなと思いました。Hさんは結婚してやまなに、人を助けたいと思える。これは素敵だなと思いました。そして、話にあった「押し付ける」のではなく、文化を理解し合うという考え方方が大切なことだなと思いました。
- ・よく授業で、ネパールに住む人々の事、その人たちを支援する人たちのことを聞きました。「青年海外協力隊」というのは小学校の時に聞いたことがあります。どんなことをするのかは初めて知りました。日本は失速国、ネパールは途上国。どうかもしかれないと、そんなことに関係なく支援ね。ということはいいなと思いました。ネパールの地にも、アフリカなどでも活躍している人がたくさんいます。青年海外協力隊のことについて、もっと知ってみたいと思いました。

夏にネパールに行って、直接話を聞くことができたHさんについての授業でした。「青年海外協力隊」をして、単身ネパールで活動をしてる彼女の姿から、考えさせられることはたくさんありました。

国際協力の見方が少しでも広がればいいなと思って授業をしました。みんなはどんなことを感じ、そして考えましたか？

